

各位

2016年 5月 20日
第26回世界コンピュータ将棋選手権 運営委員会

「第26回世界コンピュータ選手権における順位辞退について」

記

1. はじめに

去る5月3日から3日間にわたり川崎市産業振興会館において第26回世界コンピュータ将棋選手権を開催することができました。これもひとえに競技参加者の熱意と、後援団体、観戦者の皆様のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

さて、このたび、5位入賞した「大合神クジラちゃん」につきまして、大会ルールに違反しているのではないかとの疑義があり、大会主催者であるコンピュータ将棋協会（CSA）の理事会において検討いたしました。

2. 問題となった点

5月14日に開催されたCSA理事会で検討した結果、上記ソフトには次の2つの問題点があることがわかりました。

- A. 大会ルール第10条第2項を満たしていない。すなわち、開発者全員の氏名を届けていない。
- B. 大会ルール第7条第1項で規定している「ライブラリ」ではないソースコードを利用した。

まず、問題点Aについて説明します。今大会に出場した「大合神クジラちゃん」は思考部の一部を構成するスレーブプログラムを視聴者に送り、マスタープログラムがその結果を元に指し手を決定していました。このスレーブソフトとして匿名協力者が作成したSILENT_MAJORITYというソフトを使用していました。大会ルール第6条第4項には「開発者は、2つ以上の参加プログラムの開発部の開発に関わってはならない」と規定されており、これをチェックするためにも第10条第2項で開発者全員の氏名を届け出ることを規定しております。

次に、問題点Bについてですが、SILENT_MAJORITYは2015年12月4日にライブラリとして登録公開された「Apery」を使用していました。ただし、登録されたバージョンではなくそれ以降のバージョンを使用していました。これは大会ルール第7条第1項にある、登録ライブラリ以外の将棋思考プログラムを利用することの禁止規定に違反すると考えられます。

3. 事実関係の確認

CSA では5月14日に開発者の鈴木雅博氏と話し合いの場を持ち、事実関係を確認しました。鈴木氏本人もこれらの2つの点で問題があることは大会直前に気付いていたことを認めておられました。

4. CSA 理事会としての対応

CSA 理事会としては、twitter 上で問題点が指摘される以前より、開発者本人からおよその事実関係についての説明が自主的に理事会側へなされていたことと、悪意による規定違反ではなく、開発者の届け出手続き時の記載不備やライブラリ使用時のバージョンチェックのミスの種類であるという見方もできることから、「失格」とすることは避けたいと考えました。そこで、開発者と話し合った結果、開発者は「順位を辞退」し、運営側は、今回の「大合神クジラちゃん」は「招待ソフト」の扱いとし、順位は付けないが大会での勝敗はそのまま参考記録として残すこと、開発者全員の氏名に関しては、調査し修正申告していただくことで両者は合意いたしました。

(注：過去の大会では一次予選での参加チーム数が奇数の場合、招待ソフトを用意しておりました。招待ソフトは勝敗は付きませんが予選通過の対象からは除外されておりました)

したがって、本選手権の5位以下の順位は、5位：NineDayFever、6位：読み太、7位：うさびよん2、8位：激指、それ以下の順位は1つずつ繰り上げることとします。

また、「大合神クジラちゃん」の来年の参加申し込みは可能とするが、シード順については今年の参加ソフトの最下位とします。

5. 今後の対策

運営側としては、開発者の記載や登録ライブラリ制度に関するルールについての周知や注意喚起を効果的に行うことにします。また、Stockfish などの将棋以外のオープンソースについての取り扱いにも分かりやすく提示するように工夫したいと考えております。

さらに、ルール検討委員会（仮称）を立ち上げて、選手権参加者や CSA 会員からの意見を広く求め、現行のライブラリ制度の改正、オープンソースの利用規程の見直し、オープンソース開発方式に対する対応などを検討したいと考えております。

以上